

卒業研究

1 文学部卒業研究規程

○英語文化学科卒業研究規程

英語文化学科の学生には、卒業年次に次の要項により卒業研究（論文）を課する。

キリスト教学専修を選択して卒業研究（論文）を提出する場合は、キリスト教学専修卒業研究規程に従うものとする。

1. 分量

英語で書くことを基本とし、本文は5,000語以上の長さでなければならない。

指導教員の裁量により日本語で書くことを認めることがあるが、その際、本文は12,000字以上の長さでなければならない、英語で1,000語以上の長さの論文要旨を添えることとする。

2. 題目提出期限・提出先

仮の題目を3年次1月31日までに、本題目を4年次の10月1日までに英語文化学科研究室に提出する。ただし、提出日が休日の年はその翌日までとする。

3. 卒業研究（論文）提出期限・提出先

12月15日正午（厳守）までに教務課に提出する。ただし、12月15日が休日の年はその翌日正午（厳守）までとする。

4. 審査

卒業研究（論文）の審査は、指導教員を含む複数教員による内容審査と、その後の口頭試問による。

5. 特別再履修

1) 卒業研究（論文）を再履修した場合は、下記の全ての条件を満たした場合に限り、特別再履修として前期終了時にも卒業研究（論文）4単位の認定の機会が与えられる。該当する学生は、再履修する年度の前期の履修登録締め切りまでに教務課で申請手続きを行うこと。

① 再履修する年度の前年度に卒業研究（論文）を提出し、不合格となった場合。

② 再履修する年度の前期中に卒業要件の充足が見込まれること。

③ 指導教員および研究テーマの変更を要しないこと。ただし、特別な事情が生じた場合には、指導教員の変更は認められる。

2) 本題目の提出日は履修登録と同日とする。

3) 卒業研究（論文）の提出期限は7月30日正午（厳守）とする。ただし、7月30日が休日の年はその翌日正午（厳守）とする。

6. その他

非常事態等により、学年暦に変更が生じた場合は、仮題目提出、本題目提出及び卒業研究提出期限について変更することがある。

○日本語・日本文学科卒業研究規程

日本語・日本文学科の学生には、卒業年次に次の要項により卒業研究（論文）を課する。

キリスト教学専修を選択して卒業研究（論文）を提出する場合は、キリスト教学専修卒業研究規程に従うものとする。

1. 分量

論文の分量は 15,000 字以上とする。

2. 題目提出期限・提出先

卒業研究（論文）を提出しようとする者は、所定の用紙により、題目を当該年度の 10 月 1 日までに、日本語・日本文学科研究室に提出しなければならない。

ただし 10 月 1 日が休日の年は、10 月 2 日までとする。以後、題目の変更は許されない。

期限を過ぎての提出は、日本語・日本文学科の専任教員の合議において、やむを得ない事情によると判断された場合のみ提出を認めるが、卒業研究（論文）の成績は 10 点の減点とする。

3. 指導担当教員

指導担当教員は、本学科「卒業研究ゼミ II」の各担当教員とする。

3 年次の 1 月 31 日までに、学生の希望する指導担当教員及び仮題目について登録を行い、その後学科内での調整を経て、指導担当教員を決定する。ただし、1 月 31 日が休日の年は、2 月 1 日までとする。

4. 卒業研究（論文）提出期限・提出先

卒業研究（論文）を、12 月 15 日正午（厳守）までに、教務課に提出する。ただし 12 月 15 日が休日の年は、12 月 16 日正午（厳守）までとする。

5. 面接試問

卒業研究（論文）を中心として、面接試問を行う。

6. 審査

卒業研究（論文）の審査は、指導担当教員によって行われる。

7. その他

非常事態等により、学年暦に変更が生じた場合は、仮題目提出、本題目提出及び卒業研究提出期限について変更することがある。

○文化総合学科卒業研究規程

文化総合学科の学生には、卒業年次に次の要項により卒業研究（論文）を課する。

キリスト教学専修を選択して卒業研究（論文）を提出する場合は、キリスト教学専修卒業研究規程に従うものとする。

1. 分量

論文の分量は400字詰原稿用紙30枚以上50枚程度とする。その際、400字詰め原稿用紙5枚の論文要旨を添えることとする。

論文の枚数が50枚を大幅に越える場合は指導教員に申し出ること。

2. 題目提出期限・提出先

仮の題目を3年次の1月31日までに、本題目を4年次の10月1日までに文化総合学科研究室に提出すること。ただし、提出日が休日の年はその翌日までとする。

3. 卒業研究（論文）および論文要旨の提出期限・提出先

12月15日正午（厳守）までに教務課に提出する。ただし、12月15日が休日の年は16日正午（厳守）までとする。

4. 審査

卒業研究（論文）の審査は、指導教員による内容審査、および指導教員を含む複数教員による面接試問に基づき、文化総合学科専任教員の合議によって行う。

5. 特別再履修

1) 卒業研究（論文）を再履修した場合は、下記の全ての条件を満たした場合に限り、特別再履修として前期終了時にも卒業研究（論文）4単位の認定の機会が与えられる。該当する学生は、再履修する年度の前期の履修登録締め切りまでに教務課で申請手続きを行うこと。

① 再履修する年度の前年度に卒業研究（論文）を提出し、不合格となった場合。

② 再履修する年度の前期中に卒業要件の充足が見込まれること。

③ 指導教員および研究テーマの変更を要しないこと。ただし、特別な事情が生じた場合には、指導教員の変更は認められる。

2) 本題目の提出日は履修登録と同日とする。

3) 卒業研究（論文）および論文要旨の提出期限は7月30日正午（厳守）とする。ただし、7月30日が休日の年はその翌日正午（厳守）とする。

6. その他

非常事態等により、学年暦に変更が生じた場合は、仮題目提出、本題目提出及び卒業研究提出期限について変更することがある。

○文学部キリスト教学専修卒業研究規程

この規程は、キリスト教学専修を選択して卒業研究（論文）を提出する学生に適用される。ただし、5の特別再履修については、日本語・日本文学科所属の学生には適用されない。

1. 分量

論文の分量は16,000字以上とする。

2. 題目提出期限・提出先

所定の用紙により、仮の題目を3年次の1月31日までに、本題目を4年次の10月1日までに、所属する学科の研究室に提出する。ただし、提出日が休日の年はその翌日までとする。本題目の変更は認められない。

3. 卒業研究（論文）提出期限・提出先

12月15日正午（厳守）までに教務課に提出する。ただし12月15日が休日の年はその翌日正午（厳守）までとする。

4. 審査

卒業研究（論文）の審査は、指導教員を含む複数教員による内容審査と、その後の口頭試問による。

5. 特別再履修

卒業研究（論文）を再履修した場合、前期に卒業要件の充足が見込まれる学生に限り、特別再履修として前期修了時にも単位認定の機会が与えられる。その際、題目を変更することはできない。ただし、指導教員については、特別な事情が生じた場合は変更が認められる。

論文提出期限は7月30日正午（厳守）とし、7月30日が休日の年はその翌日正午（厳守）とする。

6. その他

非常事態等により、学年暦に変更が生じた場合は、仮題目提出、本題目提出及び卒業研究提出期限について変更することがある。

2 文学部卒業研究受付について

1. 提出期限

各学科の卒業研究規程の提出期限を厳守すること。

提出期限を過ぎた場合は、一切受付しないので、余裕をもって提出すること。

2. 受付時間

平日 9 時～17 時、土曜日 9 時～12 時半、最終日のみ 9 時～12 時(平日・土曜日とも)

3. 提出先

教務課窓口

教務課で卒業研究(論文)を受理する際、控を返却する。成績が確定するまで各自保管すること。

◎学校感染症と診断された場合の卒業研究(論文)の提出については以下の処置により代理人提出を認めることとする。

1. 代理人提出が認められるのは、病院で診断を受け、保健センターに連絡し出席停止の指示を受けた学生に限る。インフルエンザ等、疑わしい段階では認めない。
2. 代理人提出できる期間は、別途周知する。
3. 代理人提出を希望する場合は、提出先の教務課に学生本人が事前連絡すること。
4. 代理人が提出する際には身分確認等を行う。身分確認用に運転免許証、健康保険証、パスポートなどのいずれかを持参すること。
5. 代理人提出を依頼した学生は、その期間に学校感染症に罹患したとの診断書を指定された日時までに教務課に提出すること。この日時までに診断書の提出が無い場合には卒業研究(論文)の提出が成されなかったこととして取り扱う。

注) 代理提出であっても締切日時は厳守の上、教務課に提出すること。(期限を過ぎた場合、一切受付しない。)

文学部 卒業研究の評価基準

ディプロマ・ポリシー		評価項目	構成	5	4	3	2	1
思考力	研究目的と問題設定	序論	研究目的が明確に述べられており、問題設定が学術的に大きな意義がある。	研究目的が明確に述べられており、問題設定が学術的に意義がある。	客観的・論理的に論が進められている。	概ね客観的・論理的に論が進められている。	研究目的がほとんど述べられておらず、問題設定に学術的な意義があまりない。	研究目的が述べられておらず、問題設定に学術的な意義がない。
	論理性	本論	非常に客観的・論理的に論が進められている。	客観的・論理的に論が進められている。	先行研究を踏まえ上での研究目的を示し、その目的と関連づけて先行研究の概説が行われている。	先行研究をある程度意識した研究目的を示し、その目的と関連づけて先行研究の概説が概ね行われている。	客観的・論理的に論が進められていない箇所が散見される。	客観的・論理的に論が進められていない。
情報リテラシー	先行研究	序論／本論	先行研究を踏まえつつも高い独創性のある研究目的を示し、その目的と関連づけて先行研究の概説が行われている。	先行研究を踏まえ上での研究目的を示し、その目的と関連づけて先行研究の概説が行われている。	先行研究を踏まえ上での研究目的を示し、その目的と関連づけて先行研究の概説が行われている。	先行研究との関連が見えづらく、研究目的と関連づけて先行研究の概説が行われているとは言えない。	研究目的の设定において先行研究を踏まえておらず、研究の目的と関連づけた先行研究の概説も行われていない。	研究目的の设定において先行研究を踏まえておらず、研究の目的と関連づけた先行研究の概説も行われていない。
	専門性 (知識・技能)	本論	多岐にわたる専門知識を効果的に用いて研究結果の解釈が行われている。	専門知識を効果的に用いて研究結果の解釈が行われている。	専門知識を用いて概ね適切な研究結果の解釈が行われている。	専門知識を用いた研究結果の解釈に不適切な箇所が認められる。	専門知識を用いた研究結果の解釈に専門知識が用いられていない。	専門知識を用いた研究結果の解釈に専門知識が用いられていない。
理解力	技能 (学問領域ごとの基準による)	本論						
	結論	結論	論文の目的・論証過程に完全に合致した結論が提示されており、その内容が学術的に大きな意義を持つ。	論文の目的・論証過程に照らして妥当な結論が提示されており、その内容が学術的に意義を持つ。	論文の目的・論証過程とほぼ齟齬のない結論が提示されている。	論文の目的・論証過程と提示された結論との間に齟齬がみられる。	論文の目的・論証過程に合致する結論が提示されていない。	論文の目的・論証過程に合致する結論が提示されていない。
表現力	書式・構成		指定された書式に忠実であり、論旨を明確にする優れた構成となっている。	指定された書式に忠実であり、論旨を明確にする構成となっている。	指定された書式に概ね忠実であり、妥当な構成となっている。	指定された書式をしばしば逸脱し、最低限の論文構成を保つにとどまっている。	指定された書式を守らず、構成も論文形式として妥当とは言えない。	指定された書式を守らず、構成も論文形式として妥当とは言えない。
	表記	形式／表現	誤字脱字や文法上の誤りが全くない。	誤字脱字や文法上の誤りはばならない。	若干の誤字脱字や文法上の誤りが見られる。	誤字脱字や文法上の誤りが多い。	誤字脱字や文法上の誤りが非常に多い。	誤字脱字や文法上の誤りが非常に多い。
	文献の引用		論文内での引用方法、引用箇所と文献との対応、表記方法に誤りが全くない。	論文内での引用方法、引用箇所と文献との対応、表記方法に誤りがほぼない。	論文内での引用方法、引用箇所と文献との対応、表記方法に誤りがみられる。	論文内での引用方法、引用箇所と文献との対応、表記方法に誤りが多い。	論文内での引用方法、引用箇所と文献との対応、表記方法が不適切である。	論文内での引用方法、引用箇所と文献との対応、表記方法が不適切である。
コミュニケーション力	コミュニケーション	口頭試問	研究の目的・方法・論証・結論の全てにわたって、論理的で整合性のある説明ができる。質疑に対して、非常に的確な回答ができる。	研究の目的・方法・論証・結論のほぼ全てにわたって、論理的で整合性のある説明ができる。質疑に対して、的確な回答ができる。	研究の目的・方法・論証・結論について、概ね論理的で整合性のある説明ができる。質疑に対して、概ね的確な回答ができる。	研究の目的・方法・論証・結論のほとんどについて、論理的で整合性のある説明ができな。質疑に対する回答が、あまり的確ではない。	研究の目的・方法・論証・結論のいずれについても、説明ができない。質疑に対して、的確な回答が全くできない。	研究の目的・方法・論証・結論のいずれについても、説明ができない。質疑に対して、的確な回答が全くできない。